

# 1年道德通信

第22号

## 第22回『なおしもん』



第22回目の道德では、重要無形文化財の輪島塗に関する文章を通して、郷土に根差した伝統と文化を継承していくことについて考えました。約1年をかけて、何人かの職人の技術を結集して作られる輪島塗は、傷みの度合いに応じて、全ての工程を遡って修理ができます。この修理のことを「なおしもん」といい、割れや欠けが生じても修理していつまでも使えるのです。職人たちは、これを作り手の責任として伝統的に行ってきました。直してずっと使うことで、器への愛着も強くなるのです。良質の漆器を、しまっておくよりも毎日使ってほしい、傷んだら修理してまた使ってほしいという職人の願いが込められています。

### みんなの意見

「なおしもん」に込められた職人たちの願いとは、どんなものだろう。

- ずっと使ってほしいし、使ってくれた人が職人になって、この先も受け継いでほしいと思っている。
- 物を大切にすることを大事にしてほしい。その思いを引き継ぎたい。
- 家族が受け継いでいる思い出のある器をしまっておかず、しっかり毎日使って大切にしてほしい。
- なおしもんを頼んだ人の「なおしてでも使いたい」という思いに応えようと、少しでもキレイに丈夫にして、いつまでも大切に使うてもらえるようにと、願っていると思う。
- 伝統をいろいろな人に知ってほしい。職人の技を未来に受け継いでほしい。
- 何年も受け継いで使っている人たちの気持ちを大切にしたいと思っている。

**伝統文化を受け継いでいくとは？**

**自分達の地域の文化にも目を向けよう!!**